

ニノ上
下

2

9
4081
2



門口9
號4081
卷2

冊九
號三
函片

ル

鳩翁通話之上

男 武修



孟子曰。今有無名之指。屈而不信。非疾。相
害事也。如有能信之者。則不遠晉楚之路。
為指之。不若人也。指不若人。則知惡之。心
不若人。則不知惡。此之謂不知類也。さうく
らまじち あんん 弁トトトト。仁人心也。の改り
章でたさります。則學問之道無他。求其
放心而已矣。と云ふ。孟子まじく。た



鳩翁通話之上

とくと引く。人のふれ大切なり半を心志あり
なれぬかきござりませ。今頃のときあり
中半ドヤ。毎名の指と小指の隣り
指ござりませ。その所の指は親指と大
指といひ人ごの指と顔指といひさうく指
と中指といひ小指と小指とやませ。た
小指の隣り指は名指とやませ。むねさ
とん中まきと。是れは婦人ごの半の
ふぐ。天下通用でいござりませぬ。名指の

かひか名とめませ。と名指とませ。何の名
まき名をかんととりませ。トト月のな指とや。
指と親指と小指の力。はしりさうく人
さ指酒のうんと減る小指の皮はさうく
小指のうらませ。と名指とやませ。と月の指
あつと親指と小指とやませ。かけませぬ。
一カんのうらませ。むねさうのどや。指が皮で
のびぬ。勿論いさうもなぬ。故小指は
小指のうらませ。とやませ。と名指とやませ。

九葉の指

二

指たるは。ゆがりて有ても。いそぎなきに
 控はつ。新い。各うま。どり。こ。ま。と。く
 信。く。く。ま。る。美。者。ど。の。が。つ。ら。と。ま。く。の
 遠い。も。い。と。ま。な。ま。ご。め。く。療。治。と。う。け。ふ。お。く。て
 つ。う。う。そ。ま。い。つ。の。忠。指。が。吞。る。の。人。と。ゆ。し
 ま。い。て。つ。の。中。に。船。く。う。お。ぼ。く。て。療。治。と
 う。け。ま。す。の。の。じ。や。晋。楚。の。係。り。の。晋。の。國。と
 楚。の。ま。と。の。通。は。千。里。こ。ま。い。ま。い。と。う。と
 い。と。す。と。り。た。と。り。や。是。れ。指。の。人。な。い。

ないをいやがるうう。あうま。守。テ。指。の。人。り
 去りざり。が。あ。たり。と。り。て。ご。さ。り。ま。す。ゆ。が。ど
 新。う。人。も。私。と。知。つ。こ。の。の。じ。や。そ。の。各。ご。ご
 ざ。り。ま。す。羞。惡。之。心。義。之。端。と。り。て。私。と。あ。る
 人。の。生。ま。つ。こ。志。う。み。が。う。私。と。あ。る。ふ
 二。指。ご。さ。り。ま。す。や。姿。の。私。と。知。り。し。ゆ。ん。の
 私。と。あ。る。ゆ。が。ご。さ。り。ま。す。是。れ。い。ふ。う。い。ゆ。ぎ
 り。が。ち。づ。い。じ。や。ゆ。が。ど。大。切。な。も。の。の。ご。さ。り。ま。す
 ゆ。が。ゆ。が。の。と。と。して。一。帆。の。舟。と。り。の。

と腹に事じや。その見おとのんが好い。う
んごめを捨て置く。お茶のわざどざう
可おごり。様ごうすりむら。やくらと解い
灸がつかへと再茶もま。風らさ着根湯
根ぶ雑炊。生妻ざけと。かりとあも。鬼作
の心む活らなま。しすま。ふのるす。一切
ぬきまひなり。どや。人よ。まね。人のやうを
こころもま。鬼のやうまんとおろ。物の
やうまんとおろ。地の中まんと持う。

鳥のやうまんと持う。ぬく。い。や。思。か
ら。な。り。味。して。お。ろ。い。ど。う。う。か。あ。う
向。き。う。う。う。中。け。り。ま。い。い。あ。う。う。う。う
と。ん。して。指。不。若。人。知。悪。之。心。不。若。人。則。不
知。悪。此。之。謂。不。知。類。と。盡。も。お。ち。せ。ら。ま
と。是。も。金。い。う。う。い。と。命。め。の。ど。や。大。と。捨
て。ゆ。と。り。や。や。の。ど。ざ。う。ま。す。人。情。の。一
般。小。の。ま。う。い。大。の。ま。う。好。い。い。ま。う。い。ま。う。い。ま
す。さ。ど。や。ソ。コ。テ。親。お。解。者。へ。ま。の。う。ま。と。心。を。お。

うづらりともさ。本脈ほんみやくが出る。うづらり焼やき相あひを引ひく
まうらりやとくや。目の玉たまがうづらりはききや。白しろ
とねあぶらりとあつとゆと。まが焼やきともあつ
こんとく。隣となりのやきおが又ちあやどたきいと。
行い績しほがしゆつとらり。あまのまうらり何なんとん
ゆとつらと。右帝みぎていもゆとあまもあまも。
かんであまうらりとの焼やきともはけこのとや。
ゆとあまもとまねきねどと。うづらりねと。
後あと乃なり中ちゆうがねらまゆす。後あとおゆとつらと。

まじ。焼やきともあつらひまねくあつとも。是こゝはゆとの僅わずか
うづらりとも。あつとまうらりたをとる。まふ何なんぞや。指ゆび
のゆらりとあつとつらと。んまうらりあつと。
ゆとあつとらら。たとすともあつとらとや。ゆとのゆ。
まうらりとも。此こゝ之こゝ謂イハレテ不ズ知ラズ類レバとゆとら。
かまきと。まうらり人の体たいとらとら。ゆとのゆとら。
まうらりあつと。古こ款くわんかつらと。ゆとのゆとら。
まうらりあつと。花はなあつとらとら。指ゆびや。是こゝはあつと。
まうらりあつと。ゆとらとら。ゆとらとら。ゆとらとら。

九
二

んぐまぶつと有てら。色々白かろうぞ。鼻千らの
毎つとあろうぞ。え際うらうらうかろうぞ。丈ハ
んせりけらうら。何乃やふふぬ車。肩後ハ
まらお小馬乃糞入て中なまのたや。あまを
わんのえりけり。こやま守。何まあおさんどのら。
わぐらうらとで。端の尻とらうらとわ。丁稚の長
吉が例へて。おさんどん。おまへの鼻乃きたふ
雲がはらうら。又うらまのまあうらうら。さる。
おさんどんハ。嬉しうらうら。さうらうら。あまの舟

うらと。指のさねお手拭とまいて。顔はぐおのま
が鼻の先をながめ。後が固貴とわうらうら。よ。
そらう中。お糸うらゆりて。長者どん。モウとま
こりへ。イヤくほらうら。この先へ。解けなうらと。ドレく
や。あまの。お後お顔とらうら。掃帚して。お
さん。おさんどんの。おまへの。アノ長者どんハ。すわらう
い子ども。尻トや。尻乃。お葉を。お子。うらうら。おれ
や。さうら。や。なま。いと。何ま。おま。うらうら。れと
ら。そら。け。長者どの。が。コレく。おさんどん。おまへの

（）

九
振性ふるせいいふぶといふるせい振性ふるせいじや。チツトふくまげくやめ
おくれといふ。かこんが何なんといふぞあうぞ。
チト考かんがつていふとゆせ。あこなまくらうと小こ丁ぢやう
稚ちづう。さうもむらじでいふが。二角にかくとぬて
つらうが。かろまが世よ活かふなりそのれ。たのまそそ
てさうりも小使しやうじんとまそそ。ふんふんの活か躍やくハ
ずりかせぬと。角つののいそめ鬼おにの振ふるふぬますとね。
らまいかさんどんのまらうりよるふ。イヤと軍ぐんを
ま勝かちぶの。四上しじやう下げのゆ役やくが。まそそとさうとふん

ゆする。軍ぐんをま勝かちぶさうらうらう肩かた衣いと正ただして。
コハく血ち氣きと付つくも千せん万まん糸いとうどんずる。ゆえ
も相あ負ひの四上しじやう下げもあざうらうみぞござうらうや
姑うきさうま教かへく換か探たんせう。まつらげつらま
らう。時とき小軍せうぐんをま勝かちぶの。是こゝ下げの血ち心しん術じゆつもあそ
そいゆえませぬ。チトゆとゆとあ持もちたきま。心の
ゆがくがくそそ。まそそいふらうらうあざうらうらう。
さうまらそ。つらうぞ。かふそらあそ。つらうらうらう。
あから又また傷やうあおまづ。つらうらうとト人ひとをかこめると

九
九
九

九
を信じて中ると識多ふらもごうくまわす。心
せんとする人があつて志あふたけを後としつゝ。
その心を憂さうとせぬいざらふ拍子のるち
ぐひで。是ほまを迷つたそのでござりませぬぞ。
是もちよその事てふたふ。心たがひおたおた
さうへふらふ。あんまららぐひの場くわらう。づら
ものぞござりませぬ。よろし味とせらりませ。
是がこそ取入人の目にかきせぬ。ゆる人の
目ふらうらあゆむ。ゆげんで有てもゆづらう有ても

く〜〜〜いひや。けを分列うおあるらや。是
トやおよろしく少しと沖のかりませぬ。ちよおの
目おのぞ。是れおに眠るある長者とよび起
〜〜。コレ長者。内容とわがゆら。心ゆらうら
奥あつた酒やさうら。是れおへはまんぶがよん
者。目をこすうら。ふせうら。お返事〜〜。
〜〜。是れおをさうら。おんさ。祝事やうお
〜〜。是れおの勢とらう。こころのや。推が
後とせぬよ。目のおらうら。はきお〜〜。まんぶ

おでらござりませぬ。あし入奉心小事をさう
 ねんといふ事とらると。心おの通りま黒くめて。
 忍恨ぐんくふくうなりませり四月心とらえれ
 ませ。わううすと心んじやんる忍心じや
 や。我とわがよふ合点ぐゆがず。そのくうい
 んう。おひはくはどののうが思入やうふやめ
 ぐハアスラくと肩で息をせやなめる。難儀
 なるのよや。せめくだまりくたしむる。結くど
 うゆとくういせゆえん。腹乃中のゆがく

とんくうくせら白状といひませり。さう進ら
 こまつさあめじや。そじや小物くゆとど一交奉
 心の西根とんえん。人欲乃忍恨とん換せぬ
 中。どうぞ少身ふ一生屋ふらまぬ極よこ
 ううござりませ。あまふけくねりくひの吐く
 けり。席ふましくトさませ。秋も夜さむいさかり
 けり。心お忍ふくを町人屋。又六人合
 麻のまをきくふ四うと。ゆが弁齒小竹片と
 月をさし。あつ山寺ふんやまの和尙があれ。

こゆらと奴。私が若小居すうまに。あざうらうら
 と店の月とを侍いゆまにぞ。私のうげがんと
 むと。尻ふ帆く。松石うし。ゆ倫親縁者
 ざり。うらくとお創といくとらまはすれど
 一向馬乃身ふれに指アア中なや門。方代と
 ゆうさやうめとぞんぐま4まにらん細い
 ものでござります。か。げぐわいつ不足のま
 私の方かなまこと。子の思ふ毎日毎秋魚の
 か。うらとそいこまら。そのと。吐息を

はい。心ざれ。侍うら。は十六ナ男が。ヤク
 うら。のら。以難候と。中との。年竟。心子息ふ
 金。は。うら。と。い。入。と。乃。来。く。強。く。心。配。り。も
 ざり。ます。す。ゆい。私。か。ど。い。中。く。た。極。さ。率。一。むら
 ござり。ます。せ。ぬ。兎。角。近。年。店。の。もの。ど。む。り。坂。お
 う。も。引。負。を。い。う。て。又。拾。あ。い。ま。ま。と。七。捨。両。わ
 ゆ。う。と。年。の。結。西。乃。明。き。終。う。お。じ。く。め。う。う
 づ。ら。う。と。ま。う。せ。鼻。の。ま。さ。の。め。ら。う。う。世。話。と。い。う
 て。ご。う。や。う。か。し。や。ら。が。う。ば。う。り。店。乃。月。ふ。ら。ん

(おきやう)

時から引渡とやら入とくきしては。主人の^{おとこ}つり
 ぬすかりのむや。そまううんまはら。はうこのわ
 れ子^こお金とほをまうづりののすことら。まこと
 うららから。たやく店^{みせ}の店^{みせ}お金とほをまうのゆで
 しとどや。けさよよいをにひ合^{あひ}のうらうごうて
 けさまうが。かてこのめつ例^{れい}まもする。はらうてのこ
 貴^{たか}月^{つき}らうてのみや月^{つき}実^{まこと}お金の減^ひの中^{なか}うら
 ろうらまう。又^{また}下^{くだ}う。ゆるの席^まおけらうめめれ。
 老人^{らうじん}が庭^{にわ}むらうか。うらう。ゆきまの心^{こころ}結^{むす}

欲^ほせむてござんとも。又^{また}親^{おや}親^{おや}縁^{ゆかり}者^{もの}のうら。金^{かね}の
 とけんといくらまう。中^{なか}ねとしてらまといりたり。
 家^{かみ}内^{うち}づきののめり人^{ひと}をまもまことまうのめりて
 ころうまうとま合^{あひ}のまう。隣の^{となりの}人^{ひと}う。イエく
 りまこと梅^{うめ}のわにま栄^{えい}耀^{よう}じや。私^{わたし}のほくまを
 つかうなまいてやさりませ。さうらうまう。家^{かみ}
 内^{うち}のまのめと。ぬすの^{ぬす}中^{なか}がわうごうて。日^ひづま一日^{いちにち}
 半^{はん}の角^{かく}づさ合^{あひ}内^{うち}中^{ちゆう}のうらうまうすゆき。イツン
 野^のへまませうと思^{おも}ふら。如^{ごと}女の^めとれん人^{ひと}も有^あ

挨拶すまひ女房の眞頂とすりと。母親の挨拶が
そまのまふ女房と叱ら。代人とやと思は
ひらうむぞ。はらうらうやうと。恨もイヤ中
らうと挨拶。はらうの若いのとヤうな年
ごりませぬと物よふかろう。兎のつくれ
らう。そりおまを人気が付て。びんふモウ
あらうらうのよや。あまり吐ふあうらうの
まをとまらう。そらと。根の障ふと
わけくみまら。たまらぬ麻がたふ。怒れ

わら。是れちぞう。や。そふわら。まげさ
う。吐ぬむと。うが。麻がぬらぬ。イ
わ。かまふ。方のなれれと。はふま
ら。ナト。おり。うら。吐ぬ。む。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か
ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ
や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。や

君とくけつのござりませ。一々^{せん}本心と金^{かね}得
 べきご。うめ^{うめ}半^{はん}の^のと^と知^しる^る難^{がた}い^い半^{はん}の^の
 かんぎと念^{ねん}忘^{わす}れ^れ。法^{ほふ}て^て死^しと^と適^{たふ}き^きう^うの^の
 ませぬ。そと中^{ちゆう}庸^{ゆう}の^の富^{ふう}貴^き貧^{ひん}賤^{けん}夫^い伏^{ふく}患^{えん}難^{がた}
 君子^{くんし}入^いと^として自^じ得^{とく}せ^せす^すと^と半^{はん}か^かり^りと^と半^{はん}か^かり^り
 ござりませ。味^{あじ}が^があ^あま^ませ^せぬ^ぬと^と若^{わく}菜^{さい}の^の所^{ところ}ふ
 り^りの^の中^{ちゆう}う^うふ^ふ受^うけて^て心^{こころ}の^のわ^わき^き入^い接^{せつ}く^くと^と並^{なら}び^びて^てい^いく^く
 小^{せう}敷^{しき}の^のあ^あと^とり^りと^とし^しら^らと^とら^らと^と若^{わく}者^{しや}ふ^ふう^うつ^つり^り各^{おの}各^{おの}青^{せい}
 くなり。却^{かへ}て^てう^うら^らふ^ふ若^{わく}と^とう^うけ^けく^く。後^ごく^くな^なう^うり

の^の振^{しん}ふ^ふか^かま^ます^すの^の若^{わく}者^{しや}も^も心^{こころ}の^のま^まじ^じや^や
 ドウ^{どう}グ^ぐは^はな^なま^まさ^さな^なま^まし^しぬ^ぬ若^{わく}の^の心^{こころ}月^{げつ}ふ^ふと
 の^のこ^こり^りませ^せす^すの^の休^{やす}息^{そく}

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters.

鳩翁道活卦も

武修開書

Handwritten text in cursive style, including characters like 鳩翁, 道活, 卦, 武修, 開書, and various smaller characters and symbols.

て流る若いさのゆや。夫ふもく人様もづとより
 つらうい年老いふのころふせむのゆやと。うし
 たりしと後でさざりませ。論語に子曰人之生
 也直固之生也幸而免とりてかりかど。人ら
 百憂ふなふと。天地のろろふ起ておるさあ若
 のうりかきども。あつとと口おる。ゆとくし
 せとめらのぬ。野人のきからきさるくんと
 つらういゆや。生とめらとふりつとゆ。むらり
 人のやういふやませぬ。その若とさざりませ

人の心がなふしとくささるも。あかふとのゆ
 ろりいとせしやなりませぬ。ふが律國のゆま。
 であとやとあまむ。あふも人らたしむ
 がけよつたか。のゆとさるきさ。あひ
 掛を竹杖とすやて。やと肩やあする。後と
 入んてめらうごませ。あのむとい竹杖と。十
 中月のま若が杖のさきふか。あらう若
 いかう。こま合く竹杖と。まなぶふささる
 うら。お十メ月のま若が。か。あ

のどや。あつ人のあふしはなまじらむおのふけ
 てもあまのあかり。せむらふもの身枝そく。三
 するごとく八間ふるほど。見杖も大松がうら
 ぎ。本。みんぐくも十人ぐらうも。見物ごの
 んいふらぐ。家内中の金銀のぐちあつたのどや。
 りく見物の心づぐむと。家内の金銀のぐひ
 けうらうと。大こく松ふ虫ぐいと。ハさんるはぐ
 らくむらぐ。仕え人。免さうも。まきく
 かり有る。いとものぐらうも。大松のぐらう

虫ぐらうのと。大五どのふえせらと。建がなうら
 よりは振がなうらふり物ごの心虫ぐ
 へらと。こまもほぐらう。焼むらうより仕え
 かなうらう。虫のうらぬるふ。せうと。まきく
 がかんようでござります。か松のハヤチと。あ
 推どやといつても。我らうらと。回があらうと思ふ
 んらなけしと。難儀なうら。みるよ。さう
 き。あふあふ。思ひのあつた。回がします。この
 回がむ。はらう。あつた。仕え。こま。らう。

つつ沖國小三百石ほどの次男。いゝおろのせ
 ぐりの人色情のうふはいつ。美気のあやまり
 あり。俄小お奈とすう半わり。いざ友の
 しくりて。こゝろ後分なきど。浴衣大
 の。袴もきぢ。懐中ものもなく。城下へ志
 りびく。折びよあつりす。いそゆりの久松
 なまび。いそゆりの久松の友
 一人。けしとあし。いそゆりとお後とい
 こゝろゆ。いそゆりもいそゆりわさ人

なまび。いそゆりもいそゆりわさ人
 こゝろゆ。いそゆりもいそゆりわさ人
 とあし。いそゆりとお後とい
 一人。けしとあし。いそゆりとお後とい
 こゝろゆ。いそゆりもいそゆりわさ人
 なまび。いそゆりもいそゆりわさ人
 こゝろゆ。いそゆりもいそゆりわさ人
 とあし。いそゆりとお後とい
 一人。けしとあし。いそゆりとお後とい
 こゝろゆ。いそゆりもいそゆりわさ人

い合分あひぶんなりのでござりませす。遠とほふ美よい結むすが
志こころどぐないいと。親おやの業わざじつも。甲かぶさささ
ほほすの半はんも。ななで難がた儀ぎいいるも。糸いとへへ
かかいいら。美よ乃の中ちゆうなりのでござりませす。武人ぶじんの
なな歌うたよよ。わわいいととななああららわわららままのの川がは流ながま
てて倒たふすさかかととああららうう。ゆゆんんぞぞうう美よいい鹿か一ひとや
とととと。美よののつつめめののぞぞいいななけけままもも。一ひとななりりい
つくつくとと。美よううててとと。ううららううててとと。一ひと足あしああららうう
りりらら半はんががああららぬぬ。ソそコこテてああららりりああららうう。鼻はなああ

ててかかうう後あと悔くわいししてて。どどんんなな半はんととししとと。ああららううつつ
めめつつららぬぬ。又またつつららぬぬ。とと思おもひひははつつ。我われとと
ううららとと。小こ洞どうははああととああららううととやや。けけいいのの半はん
ららううららととやや。ああららううませませぬぬ。危あや角かくののつついいのの鹿か一ひと
生なまののよよんんああららうう大だい半はんととやや。捕とらいいままままららううととこ
ののああららうう。すすみみののくくららううとと。撮とらいいままららうう。たたら
ららううららううとと。目めじじりり持も合あててままららうう。竹たけののつつらら
ううららううとと。撮とらいいままららうう。ああららうう。ややく
ららううとと。すすみみののくくららうう。大だい半はんととやや。ううららううのの鹿か一ひとののああ

一、余、漸、で、と、ら、る、一、や、と、し、目、ん、よ、う、と、い、つ、も、
 一、い、は、る、ら、る、お、古、長、お、い、く、ら、の、う、つ、半、一、ら、
 一、に、死、ス、お、つ、て、こ、國、と、ま、の、ま、い、く、と、と、ら、つ、ぶ、く、女、
 一、ま、し、け、ら、樹、り、志、し、守、後、用、と、も、ま、文、も、な、し、
 一、き、一、後、め、居、る、し、の、に、い、ま、ん、ち、る、と、ら、お、と、い、く、
 一、は、り、り、く、た、の、た、と、て、ま、と、り、い、お、あ、の、ら、い、樹、
 一、ま、と、と、い、く、お、く、い、ま、も、一、ま、り、ま、ら、く、お、を、
 一、の、つ、ま、も、や、こ、い、ま、ん、う、お、傷、つ、入、中、お、い、ま、ら、の、こ、
 一、と、は、る、と、し、は、け、の、く、と、掃、除、し、て、奇、の、ま、い、

一、り、ト、や、お、さ、り、ま、せ、お、れ、け、し、こ、親、の、意、想、と、お、
 一、う、い、ぢ、一、百、ま、ん、一、後、悔、し、も、あ、ら、ん、と、い、
 一、ま、い、や、お、よ、う、と、思、り、の、あ、い、ら、お、目、を、と、せ、
 一、し、や、其、ま、せ、の、か、う、め、く、と、一、轉、相、入、と、い、く、
 一、ら、ん、で、お、ら、る、の、に、國、も、ら、る、ま、す、幸、と、い、く、
 一、す、お、お、仕、め、が、え、と、半、ち、う、一、ま、い、は、ま、し、め、
 一、思、ふ、ら、お、お、も、と、わ、お、し、お、あ、く、あ、る、あ、る、目、お、
 一、あ、が、お、く、托、津、お、お、い、ま、い、つ、ら、と、ら、ら、
 一、は、ま、い、ま、い、一、い、ま、い、ま、い、一、時、の、八、月、の、中、旬、

國より遠くをまこと四つこしまいけつこのことよりはくの
 ぶどろくとしてつるを噴くも常々も
 一ゆいッロク、空こそよめ向くもあつてんこたごころり
 ちあ辰の塚ふはこらんご。猫の中うふなうめく
 日向わたりておなうはらくと思へい。おりみ
 けい。どんとはまゝぬ。國への復もたう。わあめ
 奥つきもけらうのあつらう。うきうきうきうき
 今うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 青結らうれと後の中いのかされしとやうらよ

めてんうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 尾うたふ建さちうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 目の下。尾をよのの青の指う。人の足うら
 らもあう。村方のうらうらうらうらうらうらうらうら
 色とむして金戸棚の引出くみうらうらうらうらうら
 りまごころりうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 めて。あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 の結ふ「ねたふらうらうらうらうらうらうらうらうら

一の令とこしつげ。幸ひ八月十八日。月ハ有り。け
 立のくまを極の務をげや首尾。いそは
 人志し。幸か。未だ。いふ。大板の。さの
 津の多し。おき。さう。まの。さ。おの。か
 での。し。お。この。山寺。い。つ。ぞ。ぬ。こ。
 ぶ。ぬ。ま。つ。を。た。た。わ。の。つ。ら。せ。ら
 け。の。ま。つ。り。い。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 かと。か。い。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 け。の。ま。つ。り。い。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。

んの。ぬ。の。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 と。そ。こ。た。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 け。の。ま。つ。り。い。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 つか。く。ゆ。と。ぬ。を。お。い。け。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 莫。信。爾。之。心。雨。身。之。仇。也。とい。ふ。と。お。き。
 ます。か。お。い。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 歌。小。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 心。こ。の。り。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。つ。
 鳥。不。善。無。所。不。至。と。お。き。角。つ。つ。つ。つ。つ。つ。

おくはちまよ毒いや。さうでのしんしんとおろし
 らくま半の思ひつらぬけ息まぬも目うら
 トラつそざうてきりあひいさうあんなま
 訓のおういせぬ。大ともこの人のふと盛ん
 でゆび人とこわしくまふふらうふが
 ぞういふあうら出まじこと。キ考くつらう
 ませ。むしこくお業と持出さふみか。ひつと
 いたぬいかに。はまとするこのはまも業が
 さいふたや。いさひい。鬼のうらまふはと

ちやうど。すささうしひつおんさくしてこんぬ
 と。後の中う。何時石川又あらや。然坂も花
 が出すいふめいざりませぬ。あらうり
 ずみ。折角の味が好要であざりませぬ。リコテ
 かの息まぬ。いさく今夜と一夜して足場と
 うくと考へおと。首尾がようてしつらうても
 今夜のうらま十里のうらま。しつらうてその
 うらまうらうらうと持てあらう。あつらうら目ん
 せうと目とふらうらうらうと。梅がもあつらうら目。

ぐさぬ。ごうごうと一トお入御さるものやと。今ま
 おおぬのさへしつと。ちうつとお遊つと。こ
 用とらちくえんおせむ。なぬのすこふ。六枚屏
 風がさる。ある。又紙がこの小倉百さる。さ
 ちふんてめうら。ふと月よか。つら。一ちひ
 てのりられん。くま。ま。び。このと。おのこ。こ
 さい。ゆ。おのふ。お。かの。身。ま。け。こ。と
 外。返。ぬ。と。あ。ら。俄。さ。ら。ふ。か。つ。く
 来。と。た。夜。の。は。業。と。や。め。さ。ら。ま。め。さ。ら。

銀の下。つ。流。屏。が。ひ。つ。つ。り。と。物。こ。と。も。事。や
 さま。ハ。び。ぐ。ふ。ふ。お。心。も。め。の。ぐ。お。さ。ら
 ゆ。せ。う。ぞ。は。香。ハ。中。細。を。教。忠。の。う。と。や。お。の
 ち。う。ら。ち。お。い。ん。く。よ。一。お。あ。ひ。ま。し。て。う。り
 違。ぬ。ま。た。の。心。と。く。ぶ。て。ん。ま。さ。ま。さ。ば。お。の。ま。ま
 ち。お。お。い。ひ。が。さ。ら。う。さ。の。ふ。ま。ら。ふ。く。の。ら。ら
 お。お。い。ひ。が。さ。ら。ぬ。と。よ。ん。と。物。さ。ら。う。ら。ま。ま
 こ。こ。の。身。ま。ま。の。も。け。お。の。心。の。と。お。さ。ら。う。ら
 ま。ま。の。ハ。た。せ。あ。ま。ま。と。け。お。の。心。の。と。お。さ。ら。う。ら

九条の御三

十

かゝる。号の徳でござりますせぬ。一冊一文字ま
 かぶが二百六十字。一字千金よあつと。さうい
 りのゆうなまごども。その徳あつんます。と
 中々ういござりますせぬ。若し男の筆で
 あつらう。ひまうりな。あまませぬ。二十一文字よ
 めごあげで。首の細は。いゝある。一字が千あつ
 二十一文字で。二万千あつや。三十あつ。ごご二万千
 あつ。金を進上する。首をかまな。しと。中々。
 たと。千あつ。あつ。金。ごご。二万千。あつ。い。の。ら。い。なる。し。

あら。し。やらう。あつ。と。ん。ま。ご。一。字。千。金。た。と。の
 どの。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。
 若し。う。み。ま。の。と。書。と。い。ひ。し。ま。せ。け。や。な
 刊。行。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。
 年月。と。志。の。辛。抱。し。て。わ。ら。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。
 り。根。ね。が。あ。つ。幸。へ。も。存。く。れ。と。い。ひ。あ。つ。
 山。寺。の。若。患。と。の。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。
 出。奔。し。て。の。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。
 ま。し。河。人。よ。め。と。あ。つ。と。書。出。と。い。ひ。ご。ご。ら。ま。せ。ぬ。

九糸入行二十

うん。さういふ。も。さうも。好。ふ。留。し。ま。さ。さ。く。の。あ。ん。り。
 め。く。然。い。か。げ。ん。ま。親。仁。よ。め。さ。時。分。づ。い。人。
 と。ん。と。昔。の。え。ん。げ。性。よ。か。う。う。げ。け。い。う。う。が。
 出。く。さ。い。と。き。ま。い。ど。の。中。う。ま。あ。う。あ。う。が。あ。よ。
 う。も。さ。ま。あ。め。り。い。い。そ。の。致。く。あ。う。う。さ。く。の。
 か。う。ど。の。や。う。あ。い。ふ。な。う。う。や。う。今。も。あ。す。も。
 あ。さ。り。し。い。毎。度。え。ん。げ。さ。う。し。と。無。き。さ。の。
 人。が。あ。い。う。甲。し。さ。と。又。私。へ。い。れ。さ。し。ま。し。く。こ。
 う。ま。り。有。さ。い。半。由。名。を。い。ん。あ。う。う。や。ま。す。

け。息。よ。ど。の。い。終。う。さ。う。う。が。あ。あ。さ。の。ど。こ。さ。り。
 ます。而。ん。よ。え。十。人。い。ら。の。さ。う。う。が。あ。あ。い。い。我。
 虎。可。あ。い。く。と。あ。い。の。い。う。う。い。つ。い。い。と。押。回。の。
 め。く。た。い。い。も。な。い。も。の。は。め。ま。す。目。が。可。あ。
 あ。い。い。面。白。い。の。う。え。ん。と。耳。が。可。あ。い。よ。
 は。く。と。味。せ。ん。ち。致。の。あ。が。け。り。鼻。の。う。や。
 ま。う。り。掛。あ。や。松。の。油。の。油。い。が。か。い。い。
 舌。が。あ。い。あ。い。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 が。い。い。か。い。い。あ。い。い。あ。い。い。あ。い。い。あ。い。い。あ。い。い。

はともあり。ツテ。海舟うみふねを負おんて。と。あてあらし。
か。う。こ。百文ひゃくもんが。紙かみと。かひ。ひ。ら。ら。と。と。あ。ん。な。き。い。お。
市いちと。せ。う。ら。た。と。人ひと。死し。め。る。一いち。ひ。ら。り。有ある。
引ひん。だ。う。一いつ。生せい。の。あ。い。し。出で。と。ま。し。つ。百ひゃく。年ねん。の。こ。り。
り。の。死し。の。つ。と。死し。め。る。と。其その。年ねん。死し。め。る。も。あ。り。人ひと。は。
何なに。し。て。命いのち。や。受う。け。の。し。つ。と。生なま。ま。す。つ。も。何なに。
れ。と。の。う。ま。い。死し。め。る。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
む。と。後あと。の。う。ま。い。な。り。や。等ら。な。り。の。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。
百ひゃく。あ。ら。も。あ。ら。い。の。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。

か。一いち。首くび。と。う。ま。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。
と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。と。あ。ち。つ。味あじ。は。う。ら。い。し。よ。ひ。ら。ら。

巻八 九

七

白の月とてわづらひしうはなれず。近こゝろにおあるともすなり
 半まなれば。我わがかごとを我われたぐり。りゆますする半まの
 なしめとら。わの固かた果えしや。どうえんともうらの負い
 定ぢやうが有ありたる。無むなる。運うんその後のちれんよ
 らしゆれがむし。このをわのさうり。板いの板か人びと
 のあへ引ひきさき。水みづ責せ火かせあのらうしことあ
 とさ。い。このあめ。燃も火かの中なかがらひしうなり。あ
 責せ若わとゆら。燃も屋やしうり。体ていとむ
 し。このをと思おもひ。どうり。や。ら。ら。ら。思おもひ。

なる。その人ひとが飛とま。し。し。前まへの身みく。あ。ら。ら。ら。
 だ。こ。が。無むい。ど。な。く。水みづ責せ火か責せい。あ。ら。ら。骨ほねと
 ひ。ぎ。と。肉にくと。さ。ら。と。い。の。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。
 半まり。の。責せ若わと。無むい。の。者ものら。と。の。と。思おもひ。ら。ら。ら。
 せ。ん。が。ら。ら。ら。無むい。の。者ものら。と。の。と。思おもひ。ら。ら。ら。
 か。ふ。し。の。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。
 角かく今いまの。有あり。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。
 あ。ら。ら。ら。あ。ら。ら。ら。あ。ら。ら。ら。あ。ら。ら。ら。あ。ら。ら。ら。
 半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。半ま。ら。ら。ら。

（九条の御書）

七

先師のいははあふしらくがきくゞんときり
らくんのゆきつこけあまんとりらなぐ
くかんでうらうらとた人のいふいふまじり
しすあつぢり者うらうらあまのりとき隣が大平
トヤ 近あふらやまきとまて強ら。細友うらうら
さびくえぬよまおの戸があまうらあ
あまきとハま清のいふとあまのり
焼らうらうらいぬと戸と焼中うらうら
うらうらそのおまはハま清うらうら目とらうら

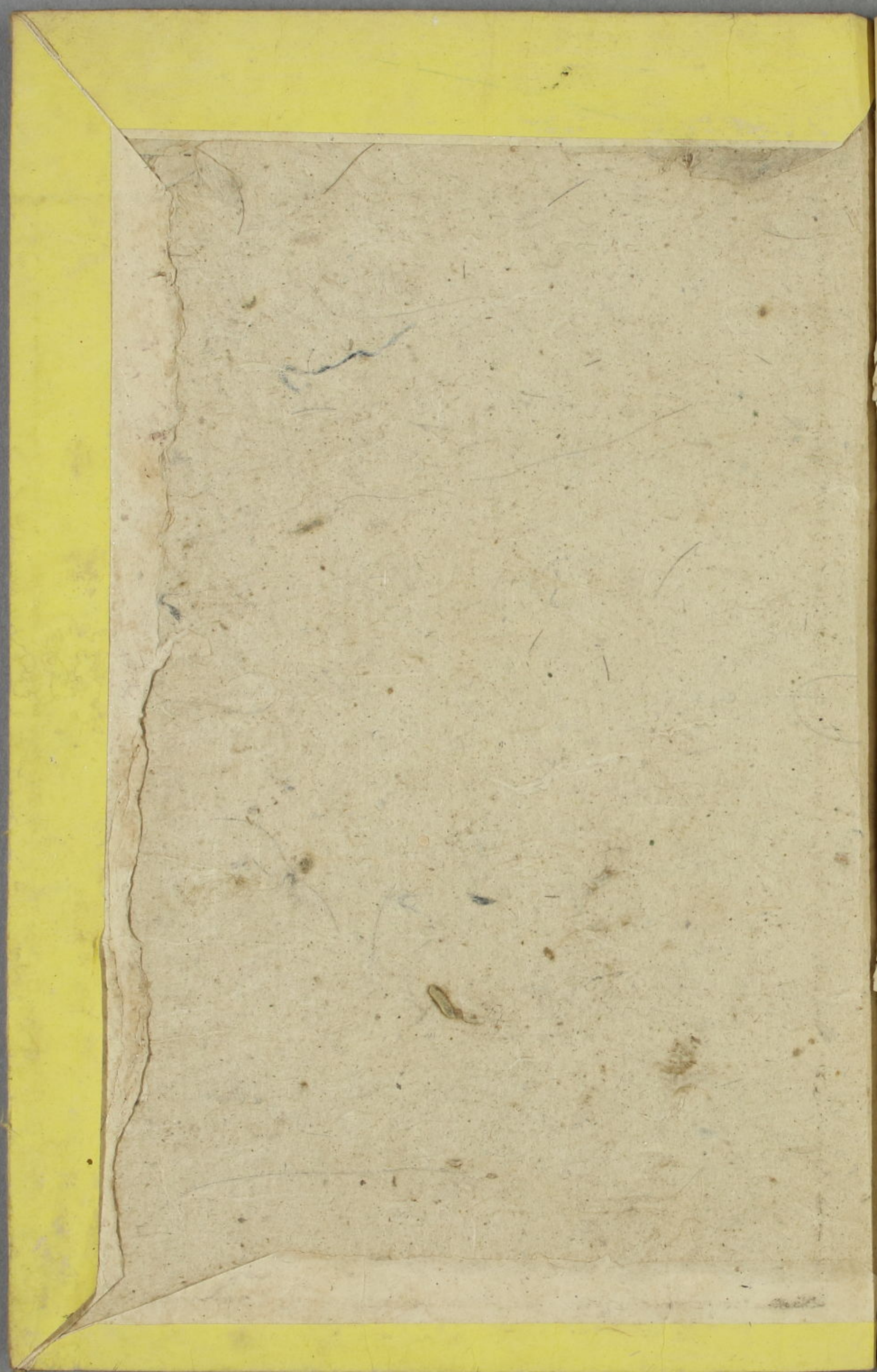
うらうら赤裸くぬかうらうらんでありあまら
あま焼灯あまのさきうらうら隣うらうら
えらうらあまハま清うらうらまへ焼うらうら
まきとま焼灯うらうらあまの焼灯うらうら
まふさけあまうらうらうらうらうら
あまうらうらあまうらうらうらうらうら
友道うらうらあまうらうらハま清うらうら
ハま清うらうらあまうらうらうらうら
あまうらうらうらうらうらうらうら

あまうらうらうらうらうらうら

とう物とてうーあや。結構な燈灯のたうと
 こらふふらたがう。大歩おとさうしてめうん。
 やううううううのんらじや。めううま車んを
 びびひひおとさうまう。東うじの振もあふ
 ろいめと。若んく一せうんん。けハき橋の
 西連中じや。まのくわおんうおの大小程を
 がこのめ振るう。右切のんれログー
 控くあぬ。括のかんごを若くせん。條治
 けん。うてまうもあううかきん。此之謂

不^{スト}知^ラ類^{シヒラ}と作^リこま^シと。控^メめ^ンん^ウ後^ト
 下座

九新本行三
 12



Handwritten text in a rectangular frame on the right page. The text is written vertically in a cursive style, likely a mix of Chinese characters and Latin script. The characters are difficult to decipher due to the cursive nature and fading. The text appears to be organized into several lines, possibly representing a list or a set of instructions.

九
精
功
行
二
行

非

